

鹿児島県産化石および化石産地に関する文献目録

山下 透*

A Bibliography on Fossils and their Localities in Kagoshima
Prefecture, South Kyushu, Japan

Toru YAMASHITA

はじめに

鹿児島県の地質のなりたち、すなわち地史については、日々、多くの研究者によって解明がすすめられている。鹿児島県下には、古生代後期から現在にいたる各地質時代の地層や岩石などが分布しているが、層序や地質構造の詳細については、まだ十分に解明されていない地域がある。それは、県下の広域が、シラスに代表されるような新生代後半の厚い火山噴出物によって被覆されていることに起因しているようである。今後の研究に一層の期待が寄せられるところである。

火山地帯という特異性をもつ鹿児島県の地質的な背景のある中で、地質構造の発達史の解明の手がかりとなる化石についての研究も活発に進められており、その専門的な成果は逐次公表され、県下の地史が次第に明らかにされつつある。

ところで、鹿児島県立博物館では、自然史系のテーマ「鹿児島の自然」に基づき、地学部門では、地質に関する資料収集や調査研究を行っている。博物館で収集・保管・展示・教育普及活動の対象となる博物館資料は、正確なデータに裏付けされたものでなければその価値がなく、そのためには、資料収集や調査研究の基礎となるべき文献等の収集も重要で不可欠のものである。

本稿では、化石産出と直接関係のある鹿児島県の地質・地形及び県内で発見されている化石の概要も列記して、当博物館が資料収集及び調査研究の過程において収集または参考とした鹿児島県の化石等に関する研究論文並びに基本的な参考文献を目録として紹介することにした。

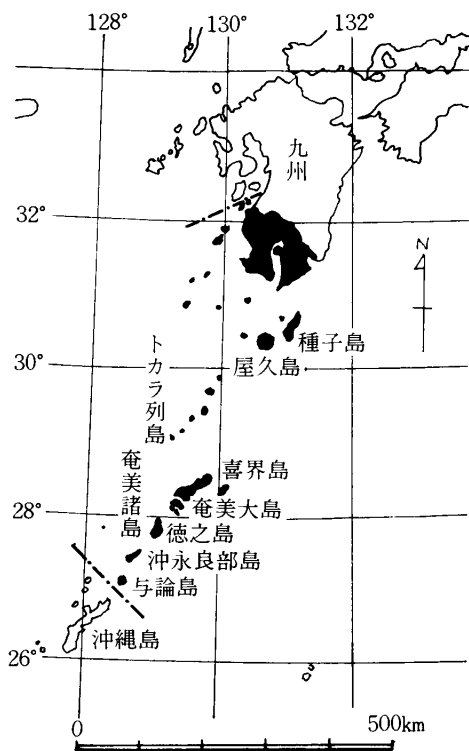
なお、本稿をまとめるにあたり、鹿児島大学理学部地学教室の早坂祥三教授・大塚裕之助教授から貴重な文献の紹介、その提供をいただき、これについての指導助言を賜った。ここに記して深甚の謝意を表す。また日ごろから鹿児島県下の岩石・鉱物についての懇切な指導助言をいただいている同教室の大庭昇教授に対し厚く御礼申し上げる。

I. 鹿児島県の地質・地形

鹿児島県下の地質は、古生代後期から現在にいたる各種の地層や岩石などから構成されている。本土では、仏像線を境にして、古生代にできた古生層が本土西海岸側の一部に露出しているが、

* 鹿児島県立博物館 Kagoshima Prefectural Museum, Kagoshima, Japan.

中生代初期にかけて堆積した四万十層群などの地層が東側の内陸部に基盤をなして広く分布し、東北から南西方向に帯状配列をなしている。その上位には、古期安山岩類や新期安山岩類・シラスなど新生代の火山噴出物が帯状配列とは関係なくお



第1図 鹿児島県の位置

おっている。また、本土の南に点在する南西諸島の島々は、堆積岩類を主とする島と火山岩類を主とする島とが南北に並列に連なり、特に奄美大島以南の島々には、サンゴや有孔虫石灰岩などの堆積岩が分布して、本土とは異なる地質構成と地形を示している。

鹿児島県下の古生層には、わずかに阿久根古生層・川内古生層及び名音層中に含まれる石灰岩のように *Fusulina* (フズリナ・紡垂虫) や *Radiolaria* (ラディオラリア・放射虫) などを産する地層などがあるが、その露出面積は極めて小さい。

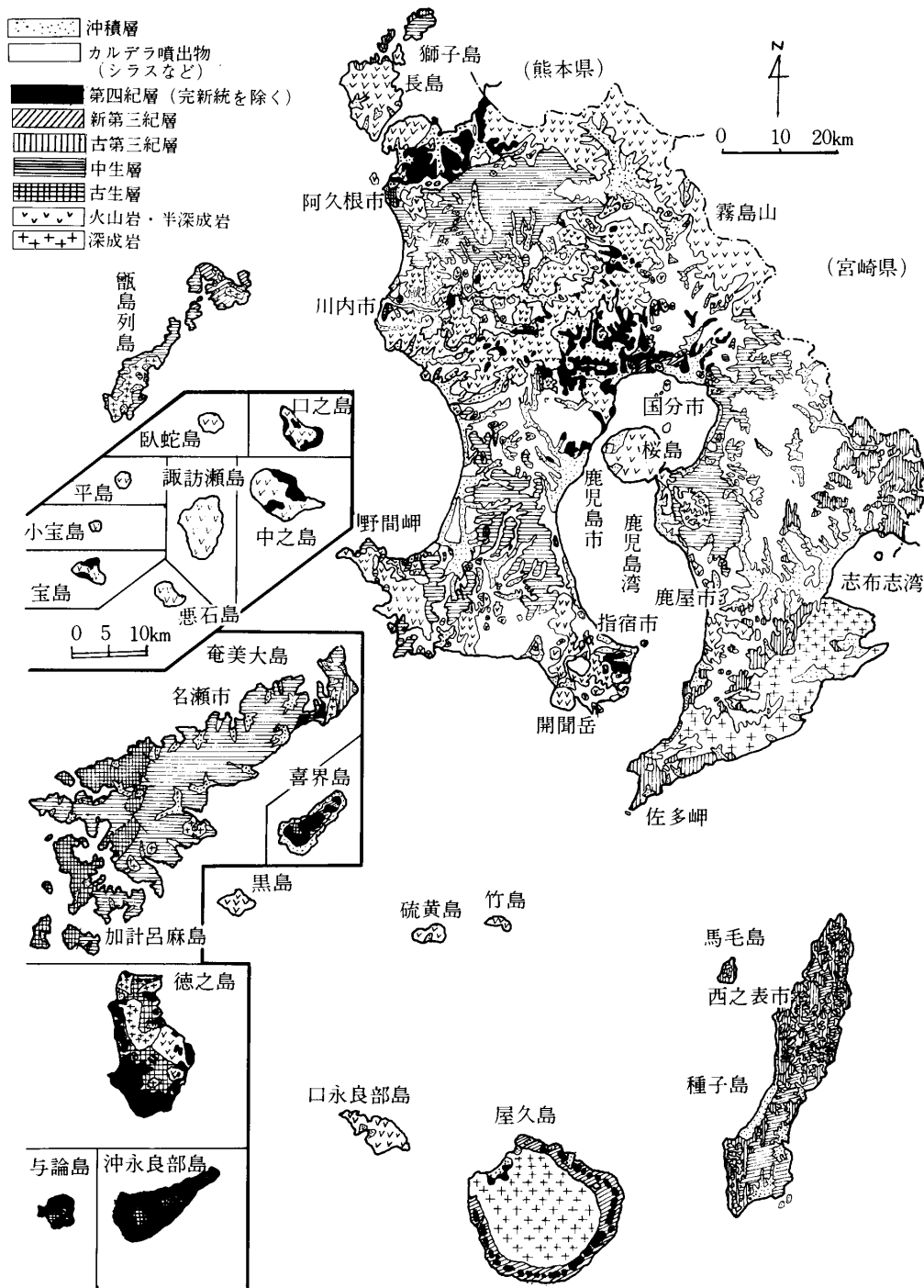
中生代の地層としては、四万十地向斜に起因するおもに砂岩・頁岩からなる四万十層群が広く県下をおおい基盤をなしている。また上部白亜紀のものと考えられる御所浦層群や姫浦層群は長島や獅子島などに分布し、*Ammonite* (アンモナイト・菊石) や二枚貝の *Trigonia* (トリゴニア・三角貝) *Inoceramus* (イノセラムス) など中生代を代表する化石を産している。さらに、薩摩半島の南端野間岬ではジュラ紀と考えられる

サンゴ類の化石、川辺町野間や大島郡竜郷村秋名川河岸では白亜紀の *Ammonite* や二枚貝の化石が発見されるなど、わずかな化石の発見によって、中生代の地層が決定づけられている。最近、奄美大島では、*Conodont* (コノドント) 化石の研究から、従来二畳紀(古生代)と考えられていた地層(名音層)が三畳紀(中生代)であることが解明され(猪郷, 1972), 古生代の地層と考えられていたものが、数千万年も若返ってきている例などもある。

新生代の地層は、県下各地に割に広く分布しているが、古生代・中生代の地層に比べて広い地域から化石などが産出していて、それらの化石を含む地質や地史についての研究も多面的に行われている。新生代第三紀中頃までには、県本土の北西部の大部分は陸化していたが、大隅半島の南東部から種子島・屋久島にかけてはこの時代に堆積が進み、四万十層群分布地域の東側に日南層群や熊毛層群などが形成された。これらの地層からは、有孔虫や貝の化石などが発見されている。第三紀後期になって造山活動が活発となり、火山岩類を広く噴出した。新生代第四紀には4回の氷河期があり、海水準の降下によって日本列島は大陸と陸橋で陸続きとなり、シカやゾウなどのほ乳動物が大陸から日本へ移動して来た。この時期に鹿児島県下では、*Metasequoia* (メタセコイア) や *Fagus* (ブナ) などの化石を含む永野層や国分層群などが堆積した。その後、始良

火山や阿多火山などが活発に活動してカルデラを形成し、シラスが堆積した。またその後、霧島火山・桜島・開聞岳などの噴火もあり、現在の鹿児島の地質と地形を形成してきている。

鹿児島県の地質の概略は、次の第2図のようである。



第2図 鹿児島県の地質概略図 (鹿児島県立博物館展示資料早坂原図 (1978)) [鹿児島県地質図20万分1参照]

II. 鹿児島県内のおもな化石

鹿児島県内の化石については、多くの先達によって研究され多大の成果があげられている。ここでは、県内の化石およびその産地の概要を示すことにした。

表1. 県内で発見された主要化石一覧 (早坂, 1981, 鹿児島大百科事典, 一部筆者加筆)

新 生 代	第 四 紀	燃島貝層 貝類 垂水貝層 貝類		琉球層群	貝類 有孔虫類 サンゴ類
		城山層 貝類 有孔虫類 吉田貝層 貝類・甲殻類・腕足類	花倉層 有孔虫類 貝類 国分層群 貝類・植物・哺乳類(サイ) 昆虫類 大根占層 貝類 有孔虫類		
第 三 紀	新第三紀	増田層 哺乳類(シカ) 貝類 (種子島)	島尻層 貝類 有孔虫類 (喜界島)		
	古第三紀	日南層 貝類 有孔虫類 (獅子島) 環形動物類 (長島) 外浦層(佐多)群 (種子島)	熊毛層 貝類・生痕化石類 環形動物類 (種子島)	和野層 貨幣石類 (奄美大島)	
中 生 代	白亜紀	アンモナイト類 二枚貝類 (川辺)	姫浦層群 御所浦層群 (川辺)	貝類・アンモナイト類 (甌島・長島) (獅子島)	奄美層群
	ジュラ紀	サンゴ類 有孔虫類 (野間池)	大勝層 名瀬層	アンモナイト類 放散虫類 (奄美大島)	
古 生 代	三疊紀			湯湾層	コノドント類 (奄美大島)
		阿久根・川内古生層		奄美大島の古生層	名音層 フズリナ類 (奄美大島)
		フズリナ類			

□ 産出化石の種類 備考：時代区分欄の長さは、時間尺度をあらわしてはいない。
〔 〕 産地

Ⅲ. 文献目録

- (1) AMANO, Masahisa (1957) ; Upper Cretaceous Molluscan Fossils from Shimo—Koshiki—jima, Kyushu. *Kumamoto Jour. Sci.*, [B]. *Sec.* 1, *Geol.*, **2**, (2), 51—67.
- (2) —————, Shinsuke OGATA and Naomichi NIRE (1958) ; On the *Tendagurium* from the Lower Bed of the Goshonoura Group in Shishi—jima, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. *Kumamoto—to Jour. Sci.*, [B], *Sec.* 1, *Geol.*, **3**, (1), 17—29.
- (3) ————— and Wakatsu FURUZAWA (1958) ; On the *Dreissensia* cfr. *lancelata* (SOWERBY) occurred from the Cretaceous Bed in Shishi—jima, Kyushu, Japan. *Kumamoto Jour. Sci.*, [B], *Sec.* 1, *Geol.*, **3**, (1), 21—26.
- (4) 青柳宏一・井上洋子 (1980) ; 奄美大島北部の和野層の微古生物学的および堆積岩石学的研究, 琉球列島の地質学研究, **4**, 23—28,
- (5) ENDÔ, Seidô (1939) ; A Pleistocene Flora from Kagoshima, Kyûsyû, Japan. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **46**, (547), 204—208.
- (6) EGUCHI, Motoki (1941) ; On Two Species of Simple Corals from Kagoshima—ken, Kyûshû. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **48**, (575), 418—420.
- (7) ————— (1942) ; Fossil Corals from the Torinosu Limestone of Yamagami, Nishikaseda—Mura, Kawanabe—Gun, Kagoshima—Ken. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **49**, (583), 147—151.
- (8) ————— (1951) ; Mesozoic Hexacorals from Japan. *Sci. Rep., Tohoku Univ., Second Ser., (Geology)*, **24**, 4—83.
- (9) 福田泰英 (1978) ; 沖縄本島の嘉陽層と種子島の熊毛層群に関する堆積学的・古生痕学的研究, 鹿児島大学大学院理学研究科 修士論文
- (10) FUKUYAMA, Kenzo (1954) ; Geology and ore deposit of the Arakawa mine, Kagoshima Prefecture. *Kumamoto Jour. Sci. Ser.* [B], **1**, (4), 19—81.
- (11) FUJIYAMA, Ienori and Yûshirô IWAO (1974) ; Fossil Insects from Tôgô, Kagoshima, Japan, (Tertiary Insect Fauna of Japan, 5). *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, **17**. (1), 87—96.
- (12) 藤山家徳・岩尾雄四郎 (1975) ; 鹿児島県北西部の後期新生代昆虫化石, 国立科学博専

報, 8, 33—48.

- (13) HAYASAKA, Shozo (1969) ; Molluscan Fauna of the Kukinaga Group in Tané-ga-shima, South Kyūshū, Japan. *Rep. Fac. Sci., Kagoshima Univ.*, (*Earth Sic., Biol.*), 2, 33—52.
- (14) ————— and Shoji HASHIMOTO (1970) ; Discovery of Marine Fossils from Immediately Below the Ata Ryroclastic Flow Deposits, Ônéjime — chô, Ôsumi Peninsula, Kagoshima Prefecture. *Rep. Fac. Sci., Kagoshima Univ.*, (*Earth Sci., Biol.*), 3, 17—22.
- (15) ————— and Kimihiko ÔKI (1971) ; Note on the Marine Molluscan Fauna from the Pleistocene Kogashira Formation in Kagoshima City, South Kyushu, Japan. *Rep. Fac. Sci. Kagoshima Univ.* (*Earth Sci. Biol.*), 4, 1—13.
- (16) 早坂祥三・大木公彦 (1971) ; 鹿児島市地域におけるボーリング資料にもとづく地質学的考察, 鹿児島大学理学部紀要 (地学・生物学), 4, 15—29.
- (17) HAYASAKA, Shôzô (1973) ; Pliocene Marine Fauna from Tané-ga-shima, South Kyushu, Japan. *Tohoku Univ., Sci. Rep., 2nd Ser. (Geol.), Special Volume, no. 6 (Hatai Memorial Volume)*, 97—108.
- (18) 早坂祥三 (1974) ; 地形・地質調査, 種子島自然環境保全基本調査書, 鹿児島県・鹿児島県自然愛護協会編, 23—39.
- (19) HAYASAKA, Shozo, Yasuhide FUKUDA and Akira HAYAMA (1980) ; Discovery of Molluscan Fossils and the Paleoenvironmental Aspects of the Kumagé Group, in Tané-ga-shima, South Kyūshū, Japan. *Prof. Saburo Kanno Memorial volume*, 59—70.
- (20) 早坂祥三 (1981) ; 九州南部および琉球列島の新生代軟体動物化石, 軟体動物の研究, (大森昌衛教授遷暦記念論文集), 大森昌衛教授遷暦記念論文集刊行会編, 357—362.
- (21) ——— (1981) ; 化石, 鹿児島大百科事典, 南日本新聞社, 227—228.
- (22) 波多江信広 (1956) ; 天草下島南部の地質に関する新知見, 有孔虫, (5), 特集1, 日本古第三系, 64—67.
- (23) ——— (1959) ; 熊本県天草下島における上部白亜系と古第三系との境界について, 鹿児島大学理科報告, (8), 101—113.
- (24) ————— (1959) ; 天草下島における白亜系・古第三系の境界 (演旨), 地質学雑誌, 65 (766), 425.
- (25) ——— (1960) ; 天草における *Nummulites* 帯について, 東北大学理科報告 (地質学) 特別号, 4, 411—423.

- (26) —— (1960) ; 天草下島南半部の地質と地質構造, 鹿児島大学理科報告, (9) , 61—107.
- (27) ——・島田欣二・中川久夫 (1964) ; 奄美諸島のサンゴ石灰岩. 鹿児島県調査報告書 (別冊) , 鹿児島地学調査研究会編, 1—15.
- (28) —— (1966) ; 鹿児島県佐多町大泊における含 *Nummulites* 礫を有する礫岩層について (学術大会講演要旨) , 地質学雑誌, **73**, 99.
- (29) 橋本勇・速水格・野田直秀 (1972) ; 鹿児島県久見崎の古生層・中生層, 九州大学教養部地学研究報告, **17**, 43—50.
- (30) 長谷義隆・畑中健一 (1976) ; 鹿児島県入来町山之口層の層序と花粉分析について, 熊本大学紀要, (地学), **10**, (1) , 1—9.
- (31) 平田国雄 (1964) ; 燃島貝層, 鹿児島島の自然, 鹿児島県理科教育協会, 235—244.
- (32) —— (1964) ; 与論島の現生珊瑚礁および隆起珊瑚礁, 鹿児島島の自然, 鹿児島県理科教育協会, 245—260.
- (33) HUANG, Tunyow (1966) ; Planktonic Foraminifera from the Sômachî Formation, Kikai — jima, Kagoshima Prefecture, Japan, *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S.*, **62**, 217—233.
- (34) 半沢正四郎 (1934) ; 種子島の地形および地質 (演旨) , 地質学雑誌, **41**, (489) , 408.
- (35) 猪郷久義 (1972) ; 新しい示準化石—コノドント— , 地質学雑誌, **81**, (3) , 142—151.
- (36) 伊原敬之助 (1930) ; 鹿児島県地質説明書.
- (37) ISHIDA, Saiji (1969) ; Wano Formation (Eocene) in Amami-oshima, Ryukyus Islands, Japan. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **75**, 141—156.
- (38) ISHIBASHI, Takeshi (1969) ; Stratigraphy of the Trassic Formation in Okinawa — jima, Ryukyus. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. D, Geology*, **19**, (3) , 375—385.
- (39) 石川秀雄・山口四郎 (1965) ; 奄美大島からのアムモナイトの発見とその意義, 地質学雑誌, **71**, (833) 78—79.
- (40) IWA, O, Yûshirô (1974a) ; On the Torimaru Flora (Plio — Pleistocene) in Kagoshima Prefecture, Southern Kyûshû, Japan. *Rep. Fac. Sci. Eng. Saga Univ.*, **2**, 79—93.
- (41) —— (1974b) ; The New Fossil Locality of Trapean Pericarp in Kagoshima Prefecture. *Rep. Fac. Sci. Eng. Saga Univ.*, **2**, 100—103.
- (42) —— (1975) ; On the Torimaru Flora (Plio — Pleistocene) in Kagoshima Prefecture, Southern Kyûshû, Japan, Part 2. *Rep. F-*

ac. *Sci. Eng. Saga Univ.*, **3**, 81—101.

- (43) KUWANO, Yukio (1960) ; A Paleogene Foraminiferal Faunule from Ôsumi Peninsula, Southern Kyûshû, Japan. *Misc. Rep. Inst. Nat. Res.* (52~53), 136—146.
- (44) KATAOKA, Jun (1961) ; Bryozoa Fauna from the “Ryukyu Limestone” of Kikai-jima, Kagoshima Prefecture, Japan. *Tohoku Univ., Sci. Rep., 2nd Ser. (Geol.)*, **32**, 213—272.
- (45) 木野義人 (1965) ; 志布志, 5 万分の 1 地質図幅説明書, 鹿児島—(96) . 地質調査所
- (46) 上門洋志・山元武義 (1965) ; 夏井 (志布志) の貝化石, 鹿児島県地学会誌, **26**, 1—16.
- (47) 鹿児島県 (1968) ; 鹿児島県の地質, 20 万分の 1 地質図及び説明書.
- (48) 門田重行 (1960) ; *Lima (Acesta) amaxensis* YOKOYAMA の新産地, 地質学雑誌, **66**, 280.
- (49) MATSUMOTO, Tatsuro, Hideo ISHIKAWA and Shiro YAMAGUCHI (1966) ; A Mesozoic Ammonite from Amami—Oshima. *Trans. Proc. Paleont. Soc. Japan*, N. S., **62**, 234—241.
- (50) 松本達郎・大塚裕之・大木公彦 (1973) ; 鹿児島県下の四万十帯から産した白亜紀化石, 地質学雑誌, **79** (10), 703—704.
- (51) —————・野田光雄・宮久三千年 (1976) ; 南九州の地質, 日本地方地質誌, 九州地方, 朝倉書店, 198—416, 東京.
- (52) 中川久夫 (1969) ; 奄美群島 徳之島・沖永良部島・与論島・喜界島の地質 (2), 東北大地質古生物研邦報, **68**, 1—17.
- (53) 長尾 巧 (1923) ; 天草島における *Nummulite* 層の新発見, 地質学雑誌, **30**, (353), 51—55.
- (54) ————— (1926) ; 九州古第三紀層の層序 (其 1), 地学雑誌, **38**, (445), 115—130.
- (55) 南郷春文 (1964) ; 薩摩半島八重山山地 その 1 新第三紀層 (永野層), 鹿児島県地学会誌, **23**, 23—28.
- (56) ————— (1972) ; 薩摩半島八重山山塊 1 重平フローラ (中間報告), (騰写印刷), 1—42.
- (57) ————— (1976) ; 八重山山地 その 2 重平フローラ, 鹿児島県地学会誌, **50**, 22—41.
- (58) NOMURA, Sitihei and Noboru ZINBÔ (1934) ; Marine Mollusca from the “Ryûkyû Limestone” of Kikai-jima, Ryûkyû Group. *Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., 2nd Ser.*, **16**, 109—164.
- (59) 大木公彦・早坂祥三 (1970) ; 鹿児島市北部地域における第四系の層序, 鹿児島大学理学部紀要 (地学・生物学), **3**, 67—92

- (60) ————— (1974) ; 鹿児島市西部地域における第四系の層序, 鹿児島大学理学部紀要(地学・生物学), **7**, 15—22.
- (61) ÔKI, Kimihiko (1975) ; Foraminifera from the Shiroyama Formation (Late Pleistocene) in Kagoshima City, South Kyushu, Japan. *Rep. Fac. Sci., Kagoshima Univ. (Earth Sci., Biol.)*, **8**, 33—61.
- (62) 尾上 亨 (1971) ; 宮崎県えびの市産の更新世植物群, 地質調査 報告, **241**, 1—46.
- (63) ————— (1972) ; 鹿児島県北西部産後期新生代植物群について(予報), 地質学雑誌, **78**, (7), 369—375.
- (64) 大塚裕之 (1980) ; 琉球列島の脊椎動物化石群, 遺伝, **34**, (10), 46—55.
- (65) —————・西井上剛資 (1980) ; 鹿児島湾北部沿岸地域の第四系, 鹿児島大学理学部紀要(地学・生物学), **13**, 35—76.
- (66) —————・堀口敏秋・中川久夫 (1980) ; 徳之島から発見された鹿化石について, 琉球列島の地質学研究, **5**, 49—54.
- (67) —————・早坂祥三・小野慶一 (1980) ; 奄美大島の第四系平層について, 琉球列島の地質学研究, **5**, 55—62.
- (68) 遅沢壮一・相田吉昭・中森亨・橋本修一・箕浦幸治・堀口敏秋・中川久夫 (1980) ; 奄美大島の地質(第1報), 琉球列島の地質学研究, **4**, 95—106.
- (69) 佐伯四郎 (1927) ; 種子島に発見されたる第三紀魚類化石, 地質学雑誌, **34**, (408), 378.
- (70) SAHEKI, Shiro (1929) ; On Some New Tertiary Fossil Fishes from Tanegashima, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. *Rep. Jour. Geol. Soc., Tôkyô*, **36**, (435), 21—23.
- (71) 鹿間時夫 (1955) ; 鹿児島県燃島貝層の層位的位置, 地質学雑誌, **61**, (723), 598.
- (72) SHIKAMA, Tokio (1967) ; Note on the Occurrence of Fossil *Rhinoceros* from Kagoshima Prefecture, Southern Japan. 早坂一郎先生喜寿記念文集, 117—119.
- (73) SHUTO, Tsugio (1965) ; Turrid Gastropods from the Upper Pleistocene Moeshima Shell Bed. (Molluscan Palaeontology of the Pleistocene Formations in Kyushu—I), *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. D*, **16**, 143—207.
- (74) 坂井卓・小野慶一・桃木良隆・大塚裕之・早坂祥三 (1977) ; 奄美大島北部の地質, 琉球列島の地質学研究, **2**, 11—23.
- (75) 高柳洋吉 (1956) ; 鹿児島県吉田介層の有孔虫化石(演旨), 地質学雑誌, **62**, (730) 380.
- (76) TAKAI, Yasuaki and Tatsuro MATSUMOTO (1961) ; Cretaceous—Tertiary Unconformity in Nagashima, Southwest Kyushu. *Mem. Fac. Sci.*,

Kyûshû Univ., Ser. D. Geol., 11, (2), 257—278.

- (77) TAKAYAMA, Reiko and Shozo HAYASAKA (1975) ; Preliminary Reports on the Late Cenozoic Plant Fossils from the Area North of Kagoshima City, South Kyushu, Japan. *Rep. Fac. Sci., Kagoshima Univ., (Earth Sci., Biol.)*, **7**, 37—53.
- (78) 山口四郎 (1973) ; 花粉分析法について, 鹿児島県地学会誌, **42**, 1—5
- (79) ————— (1976) ; 東郷町産出の化石について, 鹿児島県地学会誌, **49**, 5—19.
- (80) YABE, Hisakatsu and Kitora M. HATAI (1941) ; On some Brachiopoda from Kagoshima — ken, Kyûshû. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **48**, (575), 491—495.
- (81) YABE, Hisakatsu (1946) ; Geological age of the Yoshida—mura Shell Beds of Kagoshima — ken, Kyushu I~III. *Proc. Japan. Acad.*, **22**, (3), 48—53; (4), 105—112; (5), 147—150.
- (82) 山本信一・速水格 (1971) ; 鹿児島県獅子島の白亜系, 九州大学理学部研究報告 (地質), **11**, (1), 35—44.
- (83) 山本憲史 (1978) ; 永野層及び相当層の花粉層位学的研究, 鹿児島大学大学院理学研究科 修士論文.

〈◎ この外に, 未公表論文としては, 鹿児島大学理学部卒業論文などがある。〉

IV 地域別文献目録

総 記 (全県版)

- (47) 鹿児島県 (1968), (51) 松本達郎・野田光雄・宮久三千年 (1976), (20) 早坂祥三 (1981), (21) 早坂祥三 (1981).

細 記

奄美大島群島

- (52) 中川久夫 (1969).

与 論 島

- (32) 平田国雄 (1964).

徳 之 島

- (64) 大塚裕之 (1980), (66) 大塚裕之・堀口敏秋・中川久夫 (1980).

喜 界 島

- (58) NOMURA Sitihei and Noboru JINBÔ (1934), (44) KATAOKA Jun (1961), (33) HUANG Tunyow (1966).

奄美大島

- (27) 波多江信広・島田欣二・中川久夫 (1964), (39) 石川秀雄・山口四郎 (1965), (59) MATSUMOTO Tatsuro, Hideo ISHIKAWA and Shiro YAMAGUCHI (1966), (37) ISHIDA Saiji (1969), (38) ISHIBASHI Takeshi (1969), (35) 猪郷久義 (1972), (74) 坂井卓・小野慶一・桃木良隆・大塚裕之・早坂祥三 (1977), (67) 大塚裕之・早坂祥三・小野慶一 (1980), (68) 遅沢壮一・相田吉昭・中森亨・橋本修一・箕浦幸治・堀口敏秋・中川久夫 (1980), (4) 青柳宏一・井上洋子 (1980).

種子島

- (69) 佐伯四郎 (1927), (70) SAHEKI Shiro (1929), (34) 半沢正四郎 (1934), (13) HAYASAKA Shozo (1969), (17) HAYASAKA Shozo (1973), (18) 早坂祥三 (1974), (9) 福田泰英 (1978), (19) HAYASAKA Shozo, Yasuhide FUKUDA and Akira HAYAMA (1980),

燃島

- (71) 鹿間時夫 (1955), (31) 平田国雄 (1964), (73) SHUTO Tsugio (1965).

鹿児島市地域

- (59) 大木公彦・早坂祥三 (1970), (15) HAYASAKA Shozo and Kimihiko ÔKI (1971), (16) 早坂祥三・大木公彦 (1971), (60) 大木公彦 (1974), (61) ÔKI Kimihiko (1975).

鹿児島本土北部地域

- (36) 伊原敬之助 (1930), (5) ENDO Seidô (1939), (80) YABE Hisakatsu and Kotori M. HATAI (1941), (6) EGUCHI Motoki (1941), (81) YABE Hisakatsu (1946), (10) FUKUYAMA Kenzo (1954), (75) 高柳洋吉 (1956), (55) 南郷春文 (1964), (72) SHIKAMA Tokio (1967), (62) 尾上亨 (1971), (56) 南郷春文 (1972), (57) 南郷春文 (1976), (63) 尾上亨 (1972), (29) 橋本勇・速水格・野田直秀 (1972), (11) FUJIYAMA Ienori and Yûshirô IWA'ô (1974), (40) IWA'ô Yûshirô (1974a), (41) IWA'ô Yûshirô (1974b), (77) TAKAYAMA Reiko and Shozo HAYASAKA (1974), (42) IWA'ô, Yûshirô (1975), (12) 藤山家徳・岩尾雄四郎 (1975), (78) 山口四郎 (1975), (79) 山口四郎 (1976), (30) 長谷義隆・畑中健一 (1976), (83) 山本憲史 (1978), (65) 大塚裕之・西井上剛資 (1980)。

大隅地域

- (43) KUWANO Yukio (1960), (45) 木野義人 (1965), (46) 上門洋志・山元武義 (1965), (28) 波多江信広 (1966), (14) HAYASAKA Shozo and Shoji HASHIMOTO (1970).

南薩地域

(7) EGUCHI Motoki (1942), (8) EGUCHI Motoki (1951), (48) 門田重行(1960), (50) 松本達郎・大塚裕之・大木公彦(1973).

獅子島・長島・甌島

(53) 長尾巧(1923), (54) 長尾巧(1926), (1) AMANO Masahisa (1957), (2) AMANO Masahisa, Shinsuke OGATA and Naomichi NIRE (1958), (3) AMANO Masahisa and Wakatu FURUZAWA (1958), (22) 波多江信広(1956), (23) 波多江信広(1959), (24) 波多江信広(1959), (25) 波多江信広(1960), (26) 波多江信広(1960), (76) TAKAI Yasuaki and Tatsuro MATSUMOTO (1961), (82) 山本信一・速水格(1971).

付記： 以上、鹿児島県産化石に関するおもな研究論文を記載してきたが、県内産化石の調査等の参考となる次の資料を記載しておく。

- ① 鹿児島県地学会(1966); かごしまの自然(地史と岩石), 第一学習社, 鹿児島.
- ② —————(1968); かごしまの自然(地質ガイドブック), 南日本文化出版協会, 鹿児島.
- ③ 鹿児島県地質調査団(1981); 自然と歴史のガイドブック・かごしま茶の間の地球科学, 南郷出版, 鹿児島.
- ④ 鹿児島県教育センター(1976); 県内における岩石・化石標本採集地, 指導資料(理科), 80, (378), 鹿児島.
- ⑤ 森下 晶(1977); 日本標準化石図譜, 朝倉書店, 東京.
- ⑥ 大磯雄一(1981); 自然に親しみ身をもって自然の成り立ちや法則を学び取る理科学習(地域の自然を生かした地学の学習)——有孔虫の化石の観察を通して——, 第32回九州地区理科教育研究大会大分大会研究発表要項, 鹿児島.
- ⑦ 鹿間時夫(1975); 日本化石図譜, 増訂版, 朝倉書店.
- ⑧ 種子島地学同好会(1979); 種子島の自然, 地質現象観察ガイド, 鹿児島.
- ⑨ 時任陽一郎(1971); 吉田貝化石層について, 鹿児島県地学会誌, 38, 鹿児島.
- ⑩ 山元武義(1968); 化石紹介, 鹿児島県地学会誌, 42, 鹿児島.

おわりに

博物館の博物館資料に関する調査研究は資料収集等と相まって重要な活動である。しかし、その根底は確かな文献等によって支えられたものでなければならない。本稿では、鹿児島大学理学部地学教室の好意により、鹿児島県の化石に関する研究論文や基本的な文献のほとんどが記載できたのではないかと考える。今回は、鹿児島県のおもな化石とその産地も整理して記載する予定であったが、文献の紹介にとどめた。また、現地調査などによる研究も進めているが、今後より一層確かなものにしていきたい。本稿は不備な点もあると思うが、読者の方々に何らかの役立てができれば幸甚である。今後の御指導御援助をお願いする次第である。(1982, 3)